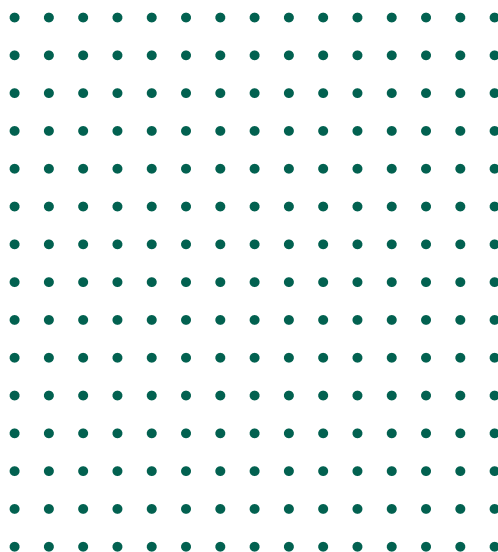


Open!  
*Meiji*



第149期  
株主レポート

平成19年4月1日～平成20年3月31日

# ● 経営の基本方針

当社グループは、「食と健康」に関わる事業領域を基盤とし、長年培ってきた技術や **Meiji** ブランドを最大限に活かしながらグローバルな企業として、これからもお客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、常に「おいしい・楽しい、健康、安心」を追求するとともに、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

## CONTENTS

株主の皆様へ	1
事業の概況（連結）	2
連結貸借対照表	6
連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書 ／連結株主資本等変動計算書	7
単独貸借対照表	8
単独損益計算書 ／単独株主資本等変動計算書	9
業績の推移／連結子会社	10
子会社レポート	11
新製品紹介	12
トピックス	14
役員／従業員／主要な事業所	16
株式の状況	17

## DASH!08（06-08中期経営計画）

- 1** **Meiji** ブランドが、「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージで、お客様から広く認知されている。
- 2** 健康事業の育成を最優先課題とし、薬品カンパニーとの連携も含めた食薬兼業の強みを活かせるビジネスモデルを確立している。
- 3** ジェネリック（後発医薬品）事業を感染症・中枢神経系領域に並ぶ柱として強化し、「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」という新しいモデルを確立している。
- 4** 海外事業を大幅に強化し、国内と同等の売上を海外で稼ぎ出すための足がかりを築いている。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は3月31日をもちまして、第149期事業年度を終了いたしましたので、ここに株主レポートをお届けし、事業の概況等をご報告申し上げます。

当社グループでは、2008年度（2009年3月期）を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「DASH!08」を推進しております。2007年度につきましては、予想を超える原材料価格の高騰の影響を受け、収益面では厳しい結果となりましたが、連結売上高では、過去最高となる4,047億円を達成し、中期経営計画の2年目として一定の成果を上げたものと考えております。当社グループを取り巻く事業環境は、原材料価格の高止まりに加え、薬価改定を始めとする医療費抑制策の強化など、厳しい状況が続くものと見込まれます。

フード&ヘルスケア事業におきましては、商品力アップとシェア拡大および本年2月より実施しております、原材料価格高騰に対処するための価格改定を市場に定着させることにより、「成長」と「収益」の両面を追求してまいります。

菓子事業につきましては、チョコレート、ガム、キャンデーの3カテゴリーを中心にシェアの拡大を目指してまいります。チョコレート市場においては、ロングセラーブランドのさらなる強化と、新たな需要の掘起しに向けた商品開発を積極的に推進してまいります。また、ガム市場においては、「キシリッシュ」を中心に新しい切り口の商品開発、話題性を喚起する広告戦略でシェア拡大に努めます。キャンデー市場においては、伸長しているグミ群を核とした商品構成でシェア確保を推進します。スナック市場では、「カール」が本年発売40周年を迎え、新規規格品の発売や新たなキャンペーンを実施してまいります。グループ会社を含めた生産工場においては、「MPS（明治製菓生産方式）」の確立により、ローコスト生産とフレッシュサブリイを実現するとともに、高品質で安全・安心な商品の生産に力を注いでおります。また、新たな分野への取組みとして、当社直営のチョコレートショップ「100% Chocolate Cafe.」のブランドを活用した店舗販売と通信販売を核とするスイーツ事業にも注力し、菓子事業の充実を図ってまいります。

健康事業につきましては、関連市場の伸長が続いているなかで確固たる地位を築くために、独自性のある商品の開発と、主力ブランドを強化し、食薬兼業の強みを活かした特徴あるビジネスモデルを展開してまいります。また、機能性や嗜好性の高い飲料ビジネスへ挑戦するための株式会社ポッカコーポレーションとの資本業務提携も、シナジーを最大限に発揮してまいります。通信販売事業につきましては、オリジナリティのある商品開発を推進し、新たな健康ソリューション

ンビジネスを実践することで他社との差別化に注力します。スポーツクラブ事業を展開している株式会社明治スポーツクラブでは、「運動と栄養の融合」を目指したサプリメント会員システムの展開を強化し、さらなる浸透を目指します。

医薬品事業につきましては、「DASH!08」で掲げた「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」構想の実現を目指し、重点顧客への戦略的営業活動を展開するとともに、収益向上に向けた構造改革を引き続き進めてまいります。医療費抑制の流れを受けて市場が伸長しているジェネリック事業について、医療ニーズに沿った特徴ある製品の拡充や、新薬事業で確立した医師とMR（医薬情報担当者）のネットワークを活用したきめ細やかな情報提供、海外生産拠点を活用したコスト競争力のアップにより事業基盤を強化してまいります。さらに、自社創薬に関して、研究開発の中心を感染症領域におき、北米開発を最優先する戦略で展開するとともに、抗体医薬の研究の充実を図り強化します。現在申請中である抗うつ薬と経口用カルバペネム系抗菌薬の新薬2品については、早期上市に努めてまいります。これらの取組みを確実に遂行することにより、本年実施された約7%の薬価ダウンを吸収し、チャレンジしてまいります。

海外事業につきましては、売上を着実に拡大し事業基盤を固めつつあります。今後もフード&ヘルスケア事業・薬品事業とともに、中国、東南アジア、北米を中心とした各地域において引き続き事業拡大を推進し、売上高に占める海外比率を20%まで高めてまいります。

当社グループは、社会と共生し永続的に発展していくために、CSR（企業の社会的責任）活動にもグループ全体で積極的に取り組んでまいります。

特に、「品質」「コンプライアンス」「情報」「リスクマネジメント」「環境」「社会貢献」の6分野を重点分野と位置づけて取組みを進めており、これからも公正で透明性のある経営を推進し、**Meiji**ブランドと企業価値の向上に努めてまいります。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月



代表取締役社長 佐藤尚忠

## 事業の概況（連結）

当期におけるわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発する米国経済の減速や、原油価格および原材料価格の高騰、さらに円高の進行も相まって、依然として先行きが見定めにくい状況にあります。

特に、原材料価格の高騰は、予想を大きく上回る水準で推移し、食品業界を始め各社の収益に大きな影響を与えており、生産効率化や諸経費の削減など企業努力では吸収しきれない状況に至っております。

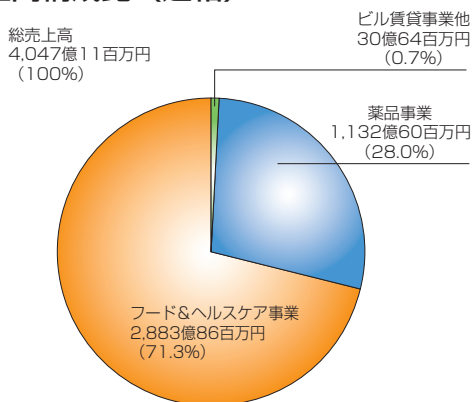
このような環境下、当社グループは2008年度（2009年3月期）を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「DASH! 08」の実現に向けて、菓子の新規商品開発や既存ブランドを活かしたマーケティング展開、重点拡大分野と定めた「健康」「ジェネリック」「海外」への積極的な戦略投資など、グループの力を結集し、取り組んでまいりました。

この結果、当期における連結売上高は、市場の高い評価を得て4,047億11百万円（前期比2.8%増）と三期連続で過去最高となりました。利益につきましては、売上拡大やコストダウンを実施したものの、39億円の原材料価格高騰の影響などもあり、経常利益は117億1百万円（前期比7.3%減）となりましたが、当期純利益は、62億40百万円（前期比13.9%増）となりました。

当社グループの事業別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当期の連結子会社は、10ページに記載しております。

### ●売上高構成比（連結）



フード&ヘルスケア事業を取り巻く環境は、原材料価格の高騰、店頭での競争激化など大変厳しく、また、昨今の食の「安全・安心」に対する意識の高まりから、従来にも増してより厳格な品質管理体制が求められる状況にあります。

こうしたなかで、当社グループは、お客様の視点に立った差別性のある新商品開発やカテゴリ戦略・ブランド戦略の展開、海外事業の強化により売上拡大を図ってまいりました。

また、原材料価格の高騰に対処するため、本年2月より一部商品の価格改定や内容量変更を順次実施しております。

この結果、フード&ヘルスケア事業の連結売上高は2,883億86百万円（前期比2.5%増）となりました。なお、当期より、明治製菓（上海）有限公司および明治製菓食品工業（上海）有限公司を連結子会社としております。

菓子事業につきましては、チョコレートは市場が前年割れするなかで堅調に推移し、また、ガム・キャンデーが引き続き好調を維持した結果、前期に続き過去最高の売上を達成しました。品目別にみると、チョコレートは、主力の「ミルクチョコレート」が徹底した店頭露出の展開により増売となり、「アーモンドチョコレート」「マカダミアチョコレート」などのナッツ群も積極的なマーケティング投資を実施した結果大きく伸長しました。また、新タイプ



のチョコスナック「北海道チョコポテト」が業界紙の「優秀ヒット賞」を受賞し、売上に大きく貢献しました。「チョコレート効果」は減売となりましたが、「リッチストロベリーチョコレート」をはじめとする高級・風味を訴求するチョコレートをラインアップするなど、お客様のニーズに沿った様々な商品提供を行い、引き続き大人向け市場の活性化を図ってまいりました。ガムは、「キシリッシュ」が発売10周年を機に実施した全品リニューアルに加え、木村拓哉を起用したCMも奏功し好調に推移しました。キャンデーは、ラインアップ強化を図った「果汁グミ」が大幅な増売となり、新たに展開した新タイプの結晶グミ「KAON」も売上に貢献しました。スナックは、「カール」がほぼ前期並みに推移し、ビスケットは、「マクビティ」が品揃えの



強化により順調に売上を伸ばしました。

健康事業につきましては、ブランド価値向上のため、マーケティング活動の推進および店頭での露出拡大と情報発信に取り組んだ結果、堅調に推移しました。品目別



にみると、健康・美容分野では、「アミノコラーゲン」は価格体系の見直しにより減売となりましたが、引き続きシェアナンバーワンを確保しております。「ザバス」はスポーツドリンク感覚の「ザバスアクアプロテイン」が新シリーズを加え大幅に伸長するとともに、プロサッカーチームの浦和レッズとのトップパートナー

シップ契約により認知度が向上し、シェアも拡大しました。食品分野では、「銀座カレー」は昨年発売した「銀座チキンカレー」が市場に定着し、増売となりました。また、主力の「ミルクココア」は前期並みの売上を確保しましたが、市場の低迷によりココア全体では減売を余儀なくされました。

一般用医薬品では、主力の「イソジンうがい薬」が例年より早いインフルエンザの流行や「殺ウイルス」をキーワードに刷新したCMを需要期に集中的に放映した効果もあり、好調に推移しました。国内連結子会社の株式会社明治スポーツプラザは、公共スポーツ施設の運営受託拡大等により業容の拡大に努めております。



#### ■菓子事業主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ショコライフ、ブラック、ハイミルク、ホワイト、ストロベリー、ノワール、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、フラン、きのこの山、たけのこの里、北海道チョコポテト、パンキー、ガルボ、ホルン、レガ、シヨパン、プッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、ガム（キシリッシュほか）、キャンデー（チェルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ぷぷるん、KAON、ポイフル、もぎもぎフルーツ、サイコロキャラメルほか）、スナック（カール、カールスティック、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）



海外事業につきましては、輸出は、米国・フィリピン向けが拡大し、アジア市場におけるコンビニエンスストアへの取組み強化も奏功し、全体的に伸長しました。輸入は、高カカオチョコレートが苦戦しましたが、主力商品の「スナイダーズ」や「ブリュイエール」が順調に推移し、全体としては前期並みの売上を確保しました。

米国のスタウファー・ビスケット社は、主力取引先であるウォルマート向けの売上は順調に推移したものの、OEMの売上が減少したことにより、前期を下回る結果となりました。メイジセイカ・シンガポール社は、主力の「ハローパンダ」「ヤンヤン」が現地および近隣諸国で好調に推移し、日本向け新商品「ディッピー」も寄与し増売となりました。明治製菓(上海)有限公司は、新商品の発売や販売エリアの拡大などの積極的な販売促進により、大幅に伸長しました。

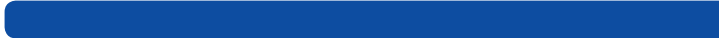
業務用食材事業につきましては、製菓材(チョコレート・ココア関連商品)は、外食チェーン・コンビニエンスストア・テーマパークへの積極的な商品提案による取引の拡大や海外品の導入により、前期を大きく上回りました。食材は、農産品や缶詰、冷凍果実・果汁が積極的な営業活動により好調に推移しました。

国内連結子会社の株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖事業が前期並みとなり、糖化穀粉事業の伸長により、全体としては増売となりました。

**■健康事業(一般用医薬品含む)・業務用食材事業主要製品** — アミノコラーゲン、ザバス、カシス-i、ローラ、パーフェクトプラス、プロテインダイエット、ミルクココア、テオブロココア、ハイレモンドリンク、銀座カリー、銀座ハヤシ、まるごと野菜、JALスープ、おでんの素、麦茶ジャーミー、農産缶詰ほか

イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックS顆粒、ミニドリンク剤活夢28ほか

業務用菓子・食品材料、砂糖、糖化製品ほか



薬品事業を取り巻く環境は、医療用医薬品については、各種医療費抑制策、ジェネリック医薬品使用促進策などの医療制度改革、外資系メーカーの国内シェア拡大、相次ぐ大型M&Aなど、大転換期の最中にあります。農薬・動物薬においても、企業間競争の激化に加え、ポジティブリスト制度の導入など規制・指導も一段と強化され、厳しい事業環境に終始しました。

このような状況下、当社グループは、医療用医薬品、農薬・動物薬ともに、主力品目を中心に着実な学術普及活動と積極的な営業活動を展開するとともに、研究開発体制の見直し、販売費の節減、製造固定費の削減等の収支構造改善に向けたコスト低減を断行してまいりました。

この結果、連結売上高は1,132億60百万円(前期比3.3%増)となりました。

医療用医薬品は、当社が強みを持つ重点顧客を中心に積極的な営業活動を展開した結果、順調に売上を伸ばしました。品目別にみると、主力の抗菌薬「メイアクト」が大幅な増売となり、抗うつ薬「デプロメール」、抗不安薬「メイラックス」、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」も順調に売上を伸ばしました。さらに当社営業力の強みを活かすべく、他社との提携を積極的に進め、富士レビオ株式会社とインフルエンザウイルス迅速診断キット「エスプラインインフルエンザA&B-N」の共同販売を、万有製薬株式会社と気管支喘息治療薬・アレルギー性鼻炎治療薬「シングレア」の共同販促を、昨年10月にそれぞれ開始するなど、重点顧客に対する製品力の強化・売上の拡大を図っております。中期経営計画「DASH! 08」の重点拡大分野の一つであるジェネリック医薬品は、抗菌薬「バ





ンコマイシンMEEK」の好調に加え、統合失調症治療薬「リスペリドンMEEK」等昨年7月に発売した5製品が寄与し、大幅に売上を伸ばしました。

開発品目については、昨年7月に導入元である日本オルガノン株式会社と共同で抗うつ薬Org3770、昨年11月にはワイス株式会社より導入した世界初の経口用カルバペネム系抗菌薬ME1211の製造販売承認を申請しました。

国内連結子会社の北里薬品産業株式会社は、主力のインフルエンザワクチンが積極的な営業活動により、また、麻しんワクチンがはしかの流行により増売となり、順調に売上を伸ばしました。

農薬は、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」を中心に堅調に推移し、全体として前期並みの売上を確保しました。動物薬は、家畜用動物薬、水産用薬がともに大幅に伸長し、また、コンパニオンアニマル用薬の犬用駆虫剤「パナメクチンチュアブルP」も増売となるなど、総じて好調に推移しました。



海外事業につきましては、主力の「メリアクト」を国際戦略製品として、東南アジアにおいてはメイジ・インドネシア・ファーマシューティカル社およびタイ・メイジ・ファーマシューティカル社、また、欧米においてはスペインのテデッカーメイジ・ファルマ社など、世界各地の拠点を活用し、売上拡大を図りました。加えて、中国市場における抗菌薬「ミオカマイシン」「メイセリン」の大幅な増売などにより好調に推移しました。



## ■薬品事業主要製品

- |            |   |
|------------|---|
| 医療用<br>医薬品 | 抗菌薬（メリアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシンほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒剤イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍剤テラルピシン、抗ウイルス化学療法剤ビクロックスほか）、人体用ワクチン |
| 農薬<br>動物薬  | 農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、アグレプト、ジベレリンほか）、動物薬（メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ボセイドン、マリンバンテル、パナメクチンチュアブルP、ウェルメイトL3ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか）                |

## ビル賃貸事業他

大都市圏の市況は、大型ビルを中心に引き続き好調に推移しており、賃料上昇は都市部から隣接市街地にも広がりつつあります。主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」は入居率の改善に加え、賃料の増額改定が徐々に進んできており、その他ビルについても引き続き安定していることから、全体として順調に推移しました。



ソリッドスクエアビル

この結果、ビル賃貸事業他としての売上は、30億64百万円（前期比5.2%増）となりました。

# 連結貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
<b>資産の部</b>	<b>348,609</b>	<b>351,514</b>	<b>負債の部</b>	<b>193,498</b>	<b>188,750</b>
<b>流動資産</b>	<b>149,550</b>	<b>152,457</b>	<b>流動負債</b>	<b>90,692</b>	<b>115,498</b>
現金および預金	11,802	14,773	支払手形および買掛金	31,185	34,902
受取手形および売掛金	78,834	84,365	短期借入金	15,569	21,297
たな卸資産	47,667	43,180	社債(1年以内償還)	—	20,000
繰延税金資産	7,136	4,862	コマーシャルペーパー	6,000	4,500
その他	4,142	5,298	未払費用	12,506	13,414
貸倒引当金	△ 31	△ 22	未払法人税等	2,982	1,834
<b>固定資産</b>	<b>199,059</b>	<b>199,057</b>	賞与引当金	3,931	4,278
<b>有形固定資産</b>	<b>145,554</b>	<b>137,041</b>	売上割戻引当金	5,213	5,591
建物および構築物	75,995	70,789	その他	13,304	9,680
機械装置および運搬具	40,000	35,712	<b>固定負債</b>	<b>102,805</b>	<b>73,251</b>
工具器具備品	2,156	2,033	社債	55,000	20,000
土地	24,486	24,089	長期借入金	21,377	17,130
建設仮勘定	2,915	4,415	長期繰延税金負債	11,422	15,810
<b>無形固定資産</b>	<b>6,078</b>	<b>7,260</b>	退職給付引当金	11,205	16,504
のれん	2,855	3,484	役員退職慰労引当金	236	295
その他	3,223	3,776	その他	3,562	3,510
投資その他の資産	47,426	54,754	<b>純資産の部</b>	<b>155,111</b>	<b>162,763</b>
投資有価証券	42,827	46,937	<b>株主資本</b>	<b>144,087</b>	<b>140,999</b>
長期繰延税金資産	361	291	資本金	28,363	28,363
その他	5,155	8,712	資本剰余金	34,947	34,949
貸倒引当金	△ 917	△ 1,186	利益剰余金	84,306	81,173
<b>資産合計</b>	<b>348,609</b>	<b>351,514</b>	自己株式	△ 3,530	△ 3,485
			<b>評価・換算差額等</b>	<b>7,171</b>	<b>18,107</b>
			その他有価証券評価差額金	8,631	17,245
			繰延ヘッジ損益	△ 1,886	816
			為替換算調整勘定	425	44
			<b>少数株主持分</b>	<b>3,852</b>	<b>3,656</b>
			<b>負債および純資産合計</b>	<b>348,609</b>	<b>351,514</b>

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 228,347百万円 221,935百万円

2. 受取手形割引高 99百万円 102百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 連結損益計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	404,711	393,853
売上原価	234,228	220,942
返品調整引当金繰入額	—	50
返品調整引当金戻入額	70	—
差引売上総利益	170,553	172,860
販売費および一般管理費	157,827	160,276
営業利益	12,725	12,584
営業外収益	2,962	2,822
受取利息・配当金	1,044	943
持分法による投資利益	73	112
その他の営業外収益	1,845	1,766
営業外費用	3,987	2,778
支払利息	1,555	1,313
その他の営業外費用	2,432	1,465
経常利益	11,701	12,627
特別利益	2,261	1,290
固定資産売却益	1,739	249
投資有価証券売却益	462	720
その他の特別利益	59	320
特別損失	1,876	2,810
固定資産廃棄損	1,326	1,728
関係会社出資金評価損	—	466
製品回収費用	338	—
その他の特別損失	212	614
税金等調整前当期純利益	12,086	11,108
法人税、住民税および事業税	4,383	2,929
過年度法人税等戻入額	—	605
法人税等調整額	1,157	2,832
少数株主利益	304	470
当期純利益	6,240	5,480

(注) 1株当たり当期純利益

16円46銭

14円39銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
営業活動による キャッシュ・フロー	13,525	17,318
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 28,939	△ 18,387
財務活動による キャッシュ・フロー	12,105	△ 3,138
現金および 現金同等物に係る換算差額	143	△ 37
現金および 現金同等物の増減額(減少:△)	△ 3,164	△ 4,244
現金および 現金同等物の期首残高	14,513	18,755
新規連結による現金 および現金同等物増加額	443	2
現金および 現金同等物の期末残高	11,792	14,513

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	28,363	34,949	81,173	△ 3,485	140,999	17,245	816	44	18,107	3,656	162,763
当期変動額											
剰余金の配当			△ 2,653		△ 2,653						△ 2,653
当期純利益			6,240		6,240						6,240
自己株式の取得				△ 58	△ 58						△ 58
自己株式の処分		△ 1		13	12						12
連結子会社の増加による剰余金減少高			△ 453		△ 453						△ 453
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 8,613	△ 2,702	380	△ 10,936	196	△ 10,739
当期変動額合計	—	△ 1	3,133	△ 44	3,087	△ 8,613	△ 2,702	380	△ 10,936	196	△ 7,652
当期末残高	28,363	34,947	84,306	△ 3,530	144,087	8,631	△ 1,886	425	7,171	3,852	155,111

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 単独貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
<b>資産の部</b>	<b>315,779</b>	<b>316,981</b>	<b>負債の部</b>	<b>175,820</b>	<b>168,436</b>
<b>流動資産</b>	<b>123,754</b>	<b>125,796</b>	<b>流動負債</b>	<b>77,659</b>	<b>100,332</b>
現金・預金	4,979	7,004	買掛金	24,438	29,044
受取手形および売掛金	66,437	71,180	短期借入金	10,263	17,348
商品・製品・半製品	25,058	25,349	社債(1年以内償還)	—	20,000
原材料	12,314	9,653	コマーシャルペーパー	6,000	4,500
仕掛品	1,985	1,441	未払金	7,505	7,195
繰延税金資産	6,108	4,000	未払費用	10,360	10,846
その他の流動資産	6,884	7,174	未払法人税等	2,208	939
貸倒引当金	△ 15	△ 8	賞与引当金	3,411	3,788
<b>固定資産</b>	<b>192,025</b>	<b>191,184</b>	返品調整引当金	270	340
<b>有形固定資産</b>	<b>121,961</b>	<b>118,131</b>	売上割戻引当金	5,213	5,591
建物および構築物	64,920	63,854	その他の流動負債	7,988	737
機械装置	31,194	28,464	<b>固定負債</b>	<b>98,160</b>	<b>68,104</b>
車両運搬具	91	99	社債	55,000	20,000
工具器具備品	1,471	1,657	長期借入金	18,663	14,209
土地	21,584	21,340	長期繰延税金負債	10,752	15,024
建設仮勘定	2,698	2,715	退職給付引当金	10,307	15,603
<b>無形固定資産</b>	<b>2,656</b>	<b>3,390</b>	役員退職慰労引当金	206	270
<b>投資その他の資産</b>	<b>67,408</b>	<b>69,662</b>	債務保証損失引当金	271	—
投資有価証券	31,922	44,104	その他の固定負債	2,959	2,996
関係会社株式	24,157	15,856	<b>純資産の部</b>	<b>139,959</b>	<b>148,545</b>
出資金	500	511	<b>株主資本</b>	<b>133,433</b>	<b>130,898</b>
関係会社出資金	6,102	5,443	資本金	28,363	28,363
長期貸付金	3,937	3,139	資本剰余金	34,947	34,949
その他の投資	1,705	1,785	資本準備金	34,935	34,935
貸倒引当金	△ 917	△ 1,178	その他資本剰余金	12	13
<b>資産合計</b>	<b>315,779</b>	<b>316,981</b>	<b>利益剰余金</b>	<b>73,651</b>	<b>71,071</b>
			利益準備金	7,090	7,090
			その他利益剰余金	66,561	63,980
			固定資産圧縮積立金	20,521	20,920
			別途積立金	39,000	36,500
			繰越利益剰余金	7,039	6,560
			<b>自己株式</b>	<b>△ 3,530</b>	<b>△ 3,485</b>
			<b>評価・換算差額等</b>	<b>6,526</b>	<b>17,646</b>
			其他有価証券評価差額金	8,411	16,829
			繰延ヘッジ損益	△ 1,885	816
			<b>負債および純資産合計</b>	<b>315,779</b>	<b>316,981</b>

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 203,158百万円 198,427百万円  
 2. 受取手形割引高 99百万円 102百万円  
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 単独損益計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
売上高	301,558	294,629	特別利益	2,454	1,035
売上原価	148,957	143,532	固定資産売却益	1,718	210
返品調整引当金繰入額	—	50	投資有価証券売却益	462	720
返品調整引当金戻入額	70	—	貸倒引当金戻入益	219	—
差引売上総利益	152,670	151,046	その他の特別利益	53	103
販売費および一般管理費	142,875	143,343	特別損失	2,821	2,152
営業利益	9,794	7,703	固定資産廃棄損	1,194	1,668
営業外収益	3,547	3,208	関係会社出資金評価損	798	466
受取利息・配当金	1,753	1,546	製品回収費用	338	—
雑収入	1,793	1,661	債務保証損失引当金繰入額	271	—
営業外費用	3,550	2,393	関係会社株式評価損	99	—
支払利息	1,379	1,123	その他の特別損失	119	16
雑損	2,171	1,269	税引前当期純利益	9,423	7,401
経常利益	9,791	8,518	法人税・住民税および事業税	2,842	1,130
			過年度法人税等戻入額	—	597
			法人税等調整額	1,347	2,806
			当期純利益	5,234	4,061

(注) 1株当たり当期純利益

13円81銭

10円66銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 単独株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本								評価・換算差額等				純資産合計		
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益		評価・換算差額等合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							利益剰余金合計
前期末残高	28,363	34,935	13	34,949	7,090	20,920	36,500	6,560	71,071	△ 3,485	130,898	16,829	816	17,646	148,545
当期変動額															
剰余金の配当								△ 2,653	△ 2,653		△ 2,653				△ 2,653
固定資産圧縮積立金積立額						751		△ 751	—		—				—
固定資産圧縮積立金取崩額						△ 1,150		1,150	—		—				—
別途積立金積立額							2,500	△ 2,500	—		—				—
当期純利益								5,234	5,234		5,234				5,234
自己株式の取得										△ 58	△ 58				△ 58
自己株式の処分			△ 1	△ 1						13	12				12
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)												△ 8,418	△ 2,702	△ 11,120	△ 11,120
当期変動額合計	—	—	△ 1	△ 1	—	△ 398	2,500	479	2,580	△ 44	2,534	△ 8,418	△ 2,702	△ 11,120	△ 8,585
当期末残高	28,363	34,935	12	34,947	7,090	20,521	39,000	7,039	73,651	△ 3,530	133,433	8,411	△ 1,885	6,526	139,959

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



### 四国明治株式会社

四国明治株式会社は、平成11年に宇和島罐詰株式会社と愛媛明治株式会社との合併により誕生いたしました。その後、宇和島本社工場を閉鎖し、現在の本店の松山工場へ事業集約を行っております。従業員数は120名で、明治製菓ブランドの「カール」「プチアソート」「ミニアソート」「ポケモンチョコスナック」等を生産し、年間売上高は約16億円となっております。

平成20年1月には、新製造棟が完成し、売上高30億円を目標に、事業の拡大を図っております。

今後も明治製菓グループの一員として、万全な品質管理体制のもと、お客様に「安全・安心」な商品を提供し続けるとともに、CSR活動の取組みにより、社会に信頼される企業を目指してまいります。



本社工場外観



主な製品

### 明治制菓食品工業（上海）有限公司

明治制菓食品工業（上海）有限公司は、2005年4月上海市の松江工業区に明治製菓100%子会社として設立され、2006年8月8日に生産を開始しました。敷地面積は、65,000㎡と日本の工場に匹敵する規模となっております。現在は、「アーモンドチョコレート」「マカダミアチョコレート」「メルティーキッス」など明治製菓ブランドの主要なチョコレート製品を中国で生産するとともに、現地の市場で人気のあるギフト商品など様々な製品を生産しております。

当社で生産された製品は、中国国内では、販売会社である明治制菓（上海）有限公司を通じて全国に販売され、また、一部製品は香港や米国にも輸出されるようになりました。

最近、中国産の食品の安全性が問題となっておりますが、明治製菓の品質保証体制を導入し万全の体制を整えております。上海市内の小中学生および幼稚園児たちの工場見学の受入れも開始しました。

今後も明治製菓ブランドの様々な商品を中国の13億の人々に提供し、中国でも愛される「Meiji」ブランドを目指してまいります。



工場外観



主な製品

## フード&ヘルスケア

### ●パンキー ミルク

サクサクした香ばしいパン素材を口どけの良いチョコレートに練りこみました。シャリシャリとした食感とクリーミーな口どけの良いチョコレートとのコントラストが特長です。



### ●フランアロマティエ 森いちご

ココア練り込みビスケットの軸をホワイトホイップチョコと摘みたてのような鮮烈な香りの森いちごチョコでコーティングしました。森いちごの香りが楽しめます。



### ●ぶどう糖チョコレート ミルク

砂糖の半分以上をぶどう糖に置き換えた『考える』エネルギーの補給をテーマにしたチョコレートで、「スポーツする時」や「勉強する時」など新しい食シーンを訴求する提案型商品です。



### ●キシリッシュ+F フレッシュアップル グリーンミント

日本で初めて緑茶フッ素を配合し、フッ素コーティングで虫歯になりにくい状態にする板ガムです。特定保健用食品として認可されており、味はジューシーなアップル風味のライトミント味と、ミントの味わいとすっきり感が特長のグリーンミント味です。



### ●コーラアップ

噛むたびにコーラのおいしさが体感でき、噛むのがくせになるハードな食感の大人向けグミです。



### ●果汁グミぷぶるん ライチ

ぷるぷる柔らかなセンターグミをゼラチングミで包んだダブル食感グミです。味は果物の女王とよばれるライチ味で、女性に関心の高いコーラゲンを1袋に1,500mg配合しました。



### ●KAON 巨峰 マンゴー

「結晶化製法」により、従来のグミにはない本格的なフルーツの味わいを実現しました。フルーツをギュッと固めたような驚きのあるフルーツ感と今までのグミとは違った食感が楽しめる新タイプのグミです。



### ●北海道チョコポテト

北海道生まれのポテトスナックにチョコをコーティングした、「甘み」と「塩み」の絶妙なバランスを味わえるサクサク食感のチョコスナックです。



### ●謹製カール ほたて味

ふっくらサクサクの生地と海鮮のおいしさを組み合わせたカール。しっかりと味わえる2倍サイズ。甘みをぎゅっと閉じ込めた「ほたて」味です。



## ●ザバス アクアソイプロテイン100

新技術アクア製法により、大豆プロテインの常識を変えるクリアでスッキリとした飲み口を実現。たんぱく摂取効率が高く、「運動で体脂肪を減らす」スポーツ愛好家にも嬉しいプロテインです。



## ●アミノコラーゲンEX

高吸収型フィッシュコラーゲンの他にヒアルロン酸、コエンザイムQ10、ビタミン類など欲しい栄養を凝縮した商品です。1箱14本入りで通信販売限定品です。



## ●銀座シチュウ ホワイト

銀座ブランドから洋食屋の白いシチュウが誕生。生クリーム仕上げのなめらかなソースにからまる、やわらかな鶏もも肉は格別です。本格洋食の味わいが実感できます。



## ●銀座カレー スパイシーポテト

大盛り、辛口、スパイシーな銀座カレーが誕生。皮付きのじゃがいもを櫛形に切り、フライドして加えました。



## ●まるごと野菜 完熟トマトのミネストローネ

まるごと野菜にカップ容器入り为新登場。レンジでそのまま温められ、お皿が不要。オフィスでのランチサイドメニューなどに最適です。(コンビニエンスストア限定)



## ●テオプロココアP-800

厳選したカカオ豆と当社が誇る高度な技術を駆使し、他にはない高濃度ポリフェノールを実現。カカオ分72%配合のビター感のある深い味わいで、1杯でポリフェノール800mgが補給できます。



## ●パーフェクトプラス 即攻元気ケーキ

人気の「即攻元気ゼリー」が“アミノ酸とローヤルゼリーで即攻元気!”というコンセプトはそのままにケーキバーになりました。7種のビタミン、アミノ酸、ローヤルゼリーにカフェインを配合し、ゼリーに合わせた栄養ドリンク味に仕上げました。



## ●パーフェクトプラス ダイエットマンゴープリン

健康小腹満たしの「おなか満足シリーズ」に、チアパックのデザートが登場。腹持ちのよい成分配合でダイエットをサポートするゼリー飲料です。



## ●パーフェクトプラス おからの入ったダイエットビスケット

ダイエット素材として話題の“おから”を配合したヘルシーなビスケットです。1袋食べても100kcalで食べ過ぎる心配のないカロリー設計に加え、ダイエット中に不足しがちなビタミンなどの栄養成分もしっかり配合しています。



## ●イソジンウイルス立入禁止マスク

「イソジンうがい薬」の有効成分であるポピドンヨードを化学結合させた「3Dイソジンフィルター」内蔵型のマスクです。ポピドンヨードのパワーで飛沫中のウイルス・細菌を99.9%ブロックし、風邪やインフルエンザ対策に役立ちます。薬局・薬店でお求めになれます。



## ●イソジンうがい薬ハンディタイプ

イソジンうがい薬シリーズより、粉末タイプを発売。液モレの心配がなく持ち運びできるので、旅行時などの携帯に便利です。効能・効果は液体のものと一緒に1回1包を水に溶かして使用します。

薬局・薬店でお求めになれます。



## ポッカと資本業務提携締結！

当社は2008年1月に事業全般で幅広くシナジー効果が期待でき、ともに企業価値を高めていくことができる戦略的パートナーとして、(株)ポッカコーポレーション（以下ポッカ）と包括的な資本・業務提携契約を締結し、ポッカに22.12%（潜在株主が全て顕在化した場合には最終的に20.0%）の出資を行いました。契約締結直後から両社にプロジェクトチームを設置し、共同での商品開発や、販売分野での共同取組みなど、開発、営業、調達、生産、物流、宣伝など幅広い分野で検討を進めております。事業シナジー成果を高めて当社およびポッカの売上げと収益の向上に努めます。



# Meiji

## 資本業務提携

# POKKA P

「DASH! 08」に掲げられている健康事業の育成において、今後さらに健康訴求商品を伸長させていくために飲料分野の展開と販売ルートの拡大が重要と考え、戦略的パートナーとのアライアンスの可能性を検討。

### 資本提携の内容

ポッカの株式22.12%（発行済株式総数に対する割合）を取得し、持分法適用会社にて。

### 持分法適用会社とは

原則として出資比率が20%以上50%以下の非連結子会社・関連会社で重要性の高い会社を示す。今回の資本業務提携契約締結により、当社の連結財務諸表作成時にポッカの連結当期純利益のうち出資比率相当（22.12%）が、当社の連結損益計算書上「持分法による投資利益」として営業外収益に加算される。

### 業務提携の内容

- ・共同での商品開発
- ・販売分野における協力
- ・生産の相互委託
- ・原材料の共同調達
- ・物流に関する協力 ほか

2005年にMBOを実施し、抜本的な事業構造改革を行い、2年余りで利益体質の強化に成功。さらなる成長につながる戦略的パートナーを模索。



(注) ポッカの発行する新株予約権の一部が、平成20年4月17日に行使されたことに伴い、同社に対する当社の出資比率は、現在21.65%となっております。

## 「北海道チョコポテト」が優秀ヒット賞を受賞！

昨秋新発売した北海道生まれのポテトスナックにチョコレートをたっぷりからませた新しいタイプのチョコスナック「北海道チョコポテト」が、日本食糧新聞社が主催する『食品ヒット大賞』で「優秀ヒット賞」を受賞しました。チョコの“甘み”とポテトの“塩み”が、つついくせになる絶妙なバランスを実現しました。さらに、チョコレートなのにサクサクした新しい食感を楽しめる新奇性のある商品です。北海道チョコポテトは、ネーミングや商品設計がお客様にわかりやすいこともあり、チョコレートユーザーにとどまらず、スナックユーザーにも高い支持を得ております。この幅広いターゲット層のニーズに応えたことがヒットした要因のひとつといえます。





## 株券の電子化について ～ 株券が「無効」になります ～

平成21年（2009年）1月に「株券の電子化」が実施される予定です。株券が電子化されると、当社を含む上場会社の株券は無効となり、株主様の権利は証券会社等の金融機関の口座で電子的に管理されることとなります。

**株券をお持ちの株主様は、以下を必ずご確認ください。**

### 株券の名義をご確認ください。

株券の名義はご本人様になっていますか？

名義は株券の裏側で確認することができます。

**株券の名義がご本人様になっていない場合、早急に株券の名義書換手続きをお願い申し上げます。**

名義書換をしないまま「株券の電子化」が実施されると株主としての権利を失う可能性があります。

名義書換手続きにつきましては下記の当社株主名簿管理人の三菱UFJ信託銀行にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

### 当社株主名簿管理人

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

お問合せ先 0120-232-711（通話料無料）

各種手続用紙のご請求 0120-244-479（通話料無料）

<http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

### 証券会社に預託されることをお勧めいたします。

株券の名義がご本人様である場合、株主様の権利は、株券の電子化後に開設される「特別口座」<sup>(※)</sup>にて管理されますが、この「特別口座」では株式を売却することができません。

株式を売却するためには、必ず証券会社に株主様ご本人の口座を開設し、株式の振替手続きを行うことが必要となります。また、「特別口座」では、証券会社口座への株式振替手続きや株式の管理が煩雑になる可能性があります。

**→株券の電子化前に、株券を証券会社に預託されることをお勧めいたします。**

株券の預託手続きにつきましては、お手数ですが証券会社までご相談くださいますようお願い申し上げます。

※「特別口座」…株券電子化に伴い、証券会社を通じて株券を「証券保管振替機構（ほふり）」に預けていない株主様の権利を確保するために、自動的に当社が信託銀行に開設する口座です。

## 株主優待～寄贈先よりお礼状がたくさん届きました～

当社では、平成18年度より株主優待制度を一部変更し、株主様のご意志により、優待品を福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。寄贈先より、ご寄贈にご賛同いただきました株主様宛に、心のこもった感謝のお手紙やイラストがたくさん届きましたので、その一部をご紹介しますことができます。

昨年度は、特定非営利活動法人日本NPOセンター様を通じ、障がいを持つ児童のいる全国の支援団体を中心に、合計79団体へ寄贈させていただきました。

今年度も、当社のCSR（企業の社会的責任）活動の一環として寄贈選択制度を継続実施いたします。

### <昨年度実績>

- ご寄贈にご賛同いただきました株主様：1,219名
- 株主様からご寄贈いただきました相当金額：338万円  
（なお、当社からも同額相当分寄贈させていただきましたので、合計676万円分の寄贈をしています。）



# 役員

(平成20年6月27日現在)

## ●取締役および監査役

※	代表取締役	取締役	佐藤 佐	藤橋 秀	尚昭 理	忠男 樹
※	代表取締役	取締役	高松 佐	藤村 定	正治 美	彦信 昭
※	専務取締役	専務取締役	塚本 田	村田 文	宏政 雄	幸史 治
※	専務取締役	専務取締役	内田 路	野村 紀	祥宏 二	史彦 慎
※	専務取締役	専務取締役	小横 中	野村 良	宏祥 治	敏正 二
※	専務取締役	専務取締役	中河 通	野村 慎	英 一	正 一
※	専務取締役	専務取締役	中森 幾	森松 春	利 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	小松 隆	田田 央	知 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	浅下 容	田田 晴	健 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	木上 統	坂下 明	修 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	古川 文	川文 純	井 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	大谷 純	戸谷 理	野 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	神村 左	井座 理	口 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	左星 野	野 修	嶋 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	工藤 山	山 修	藤 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	福森 山	山 修	井 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	山星 野	野 修	島 一	男 一
※	専務取締役	専務取締役	星 野	野 修	口 一	男 一

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

## ●執行役員

常務執行役員	真高 佐	壁橋 秀	理樹 美
常務執行役員	佐小 内	藤村 定	昭仁 雄
常務執行役員	小横 中	村田 文	雄治 二
常務執行役員	中河 通	野村 慎	治二 慎
執行役員	中森 幾	森松 春	雄造 央
執行役員	小松 隆	田田 晴	雄造 央
執行役員	浅下 容	田田 晴	雄造 央
執行役員	木上 統	坂下 明	晴男 保
執行役員	古川 文	川文 純	保一 安
執行役員	大谷 純	戸谷 理	保一 安
執行役員	神村 左	井座 理	保一 安
執行役員	左星 野	野 修	保一 安
執行役員	星 野	野 修	保一 安

# 従業員

(平成20年3月31日現在)

従業員数(前期比)	平均年齢	平均勤続年数
3,840名(64名減)	40.2歳	17.0年

(注) 従業員数には当社から他社への出向者が含まれており、臨時従業員は含まれておりません。

# 主要な事業所

(平成20年3月31日現在)

## 本社

東京都中央区京橋二丁目4番16号

## 営業所

〒105-8577 北海道統括支店(札幌)、東北統括支店(仙台)、首都圏統括支店(東京)、北関東統括支店(宇都宮)、中部統括支店(名古屋)、関西統括支店(大阪)、中四国統括支店(広島)、九州統括支店(福岡)、健康事業北海道支店(札幌)、健康事業東北支店(仙台)、健康事業首都圏支店(東京)、健康事業北関東支店(宇都宮)、健康事業中部支店(名古屋)、健康事業関西支店(大阪)、健康事業中四国支店(広島)、健康事業九州支店(福岡)

薬品/薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店(さいたま)、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店(広島)、薬品四国支店(高松)、薬品福岡支店、農業札幌支店ほか5農業支店、動薬北日本支店(仙台)ほか3動薬支店

## 工場

〒105-8577 関東工場(坂戸)、東海工場(藤枝)、大阪工場(高槻)  
薬品/北上工場、小田原工場、岐阜工場(北方)

## 研究所

〒105-8577 食料健康総合研究所(坂戸)  
薬品/バイオサイエンス研究所(小田原)、医薬総合研究所(横浜)、生物産業研究所(横浜)

## 海外事務所

北京事務所、マドリッド事務所

(注) ( ) 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。

# 株式の状況

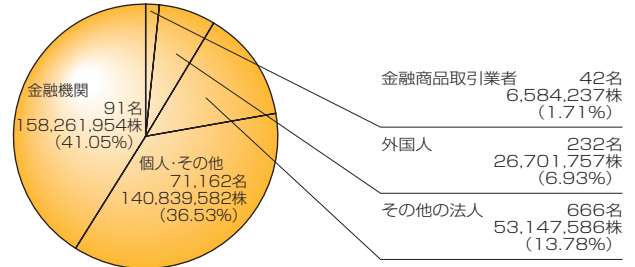
(平成20年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 株主数 72,193名 (前期末に比し630名減)
- 大株主 (上位10名)

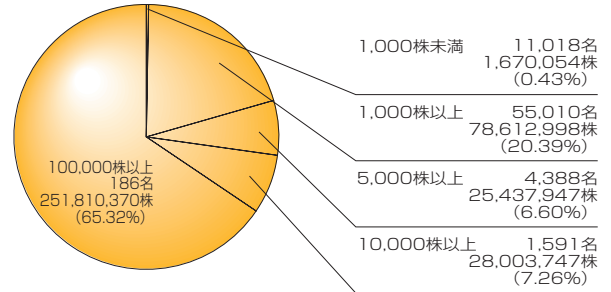
株主名	持株数 (出資比率)	
	千株	%
株式会社みずほ銀行	18,763	(4.87)
第一生命保険相互会社	16,163	(4.19)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	15,992	(4.15)
日本生命保険相互会社	14,707	(3.81)
明治乳業株式会社	10,811	(2.80)
富国生命保険相互会社	10,001	(2.59)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	8,285	(2.15)
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,804	(1.77)
東京海上日動火災保険株式会社	6,512	(1.69)
明治製菓社員持株会	5,712	(1.48)

(注) 当社は自己株式を実質で6,448千株 (出資比率1.67%) 保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

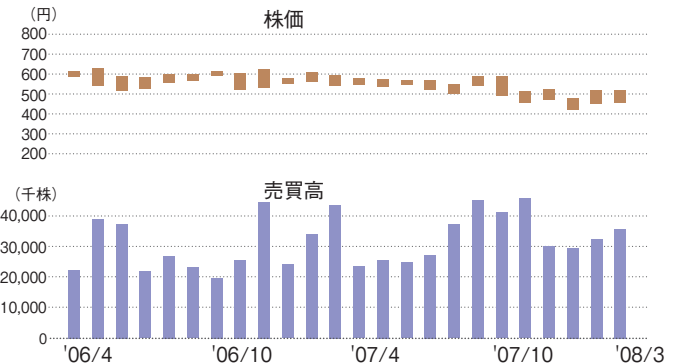
## 所有者別



## 持株数別



## 株価等の推移



# 株主メモ

**事業年度** 4月1日から翌年3月31日まで

**基準日** 期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日  
※別途定める場合は、予め公告します。

**定時株主総会** 6月下旬

**公告方法** 電子公告により行います。  
公告掲載URL <http://www.meiji.co.jp/>  
ただし事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。  
なお、会社法第440条第4項の規定により決算公告は行っておりません。

**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

**同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部

## 《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金をゆうちょ銀行の貯金口座へお振込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、株主名簿管理人に用紙をご請求ください。

## ■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を**10月末頃**に贈呈いたします。また、平成18年度より寄贈選択制度を設け、株主様のご意志により優待品を株主様へのご送付に代えて福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。

- 1,000株以上：2,000円相当
- 3,000株以上：3,500円相当
- 5,000株以上：5,000円相当



●製品は一例です（2,000円相当）。

**（電話お問い合わせ  
郵便物送付先）** 〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部  
電話 0120-232-711（フリーダイヤル）

**同取次所** 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店  
野村證券株式会社全国本支店

**実質株主の諸届  
に関する特例** 届出の内容によって証券会社等を経由すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

**単元株式数** 1,000株

**単元未満株式の買取  
および買増請求場所** 株主名簿管理人事務取扱場所および同取次所（証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。）


## 明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3272-6511 (代表)

 ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)



本冊子は、環境保全のため、再生紙を使用し、「大豆インキ」で印刷しています。